

インターネット市民塾

「IT活用し」「知の循環」を

受講生の講座開設も視野

「知恵の輪、ひとの和、づくりや社会教育、情報学」の話を、ひたひたに「知のストック」型教育から、「知の循環」型教育の仕組みを生み出すのがねらい。特に、経験豊富なシニア層が活動の場を得られるなど、地域活性化やコミュニティビジネスの発展に役立つと考えている。

この日は、坂口理事長が市民塾の方向性を語った後、文科省生涯学習政策局の森本浩一参事官が「情報化が拓く生涯学習の新たな展開」と題し、日本のIT戦略と学校教育現場でのIT化状況、また、地域を超えた情報発信が可能となり、地域コミュニティが元気になることなどを語った。特に、「個々の学習意欲に応じた対応できるのがIT活用の利点」と話し、

ネット市民塾推進協議会の榎富雄さん、とさはちさんねつとの川村晶子さんがそれぞれの取り組み事例を紹介した。

わかやまインターネット市民塾は既にネット上に「紀州の梅づくり」「世界遺産熊野古道を歩く」など六講座をスタートさせている。坂口理事長は「これから認知されれば、数百講座ぐらいはすぐになる。ネット上の技術的な問題点にも事務局がアドバイザーします」と話している。

受講登録は無料。詳細はHP (<http://akayama-shiminjuku.jp/>)。



IT化の現状を説明する文科省の森本参事官

「知恵の輪、ひとの和、づくりや社会教育、情報学」の話を、ひたひたに「知のストック」型教育から、「知の循環」型教育の仕組みを生み出すのがねらい。特に、経験豊富なシニア層が活動の場を得られるなど、地域活性化やコミュニティビジネスの発展に役立つと考えている。

この日は、坂口理事長が市民塾の方向性を語った後、文科省生涯学習政策局の森本浩一参事官が「情報化が拓く生涯学習の新たな展開」と題し、日本のIT戦略と学校教育現場でのIT化状況、また、地域を超えた情報発信が可能となり、地域コミュニティが元気になることなどを語った。特に、「個々の学習意欲に応じた対応できるのがIT活用の利点」と話し、